

総合型クラブにかかわる会議や研修会の報告

新型コロナウイルス感染対策を行った上で、6月4日(金)、13時から、きららドームを会場に、「創設・育成研修会」を行いました。今回は、「クップ」と「モルック」という2つのニュースポーツを体験する機会としました。



この2つのスポーツは、木材を投げて倒す競技であること、発祥が北欧(スウェーデンとフィンランド)であることという共通点があり、幼児から高齢者まで、だれでも参加できるという親しみやすいスポーツとして、国際大会も開かれるなど、世界的に広がりつつあります。

それぞれのゲームの仕方は、省略しますが、小さなスペースでもでき、間伐材を使えば手作りも可能ですので、エコなスポーツとして、各クラブでも、気軽に取り組めるのではないのでしょうか？



参加された人から、「性別も年齢も場所も問わない手軽なスポーツをクラブの活動に加えていくことによって、クラブの魅力づくりにつながるように思えます」との感想が聞かれ、クラブ経営のヒントになったのではないかと思います。

その他、参加者から、次のような感想などが寄せられました。

- スポーツをしていない人の参加も促せる内容でした。
- モルックは、テレビで芸人がやっているのを観ていたので、最初から興味があり、体験できてよかったです。
- 子ども主体のクラブの様子や設立の経緯などの話を聴いてみたい。



モルックは、倒れたスキットルが点数に・・・



クップは、チームで8m先のクップをねらって

わくわく(輪く和く)通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol.40

2021年

6月

スポーツクリ
LOTO BIG

令和3年度 総合型地域スポーツクラブ山口県連絡協議会総会

17クラブからの参加を受け、6月4日（金）、創設育成研修会の後、標記の会が開催されました。まずは、役員が改選され、山川敏武会長さんの後を受けて、境憲一新会長が誕生しました。境新会長さんは、これまで副会長として、全国協議会や中国ブロックでの協議や研修会に参加されておられ、総合型クラブの発展について、山川前会長さんと力を合わせてこられました。国の動向が変化する中、これまでの経験を踏まえ、よりの確なお考えで、県内のクラブを代表される役目を着実に果たしていかれることとなります。この他、理事の皆様の異動がありましたので、下記のように報告いたします。長年にわたり、理事として、責務を果たしていただきありがとうございました。

新しく理事になられた皆様におかれましては、各地域の代表として、県連絡協議会の発展にお力をいただければと存じます。

退任者

山川敏武	ゆうスポーツクラブ
小川忠良	ココロとカラダ健栄会

新任者

菅岡克則	ゆうスポーツクラブ
岡 龍一	SA スポーツクラブ
高屋英人	至誠館クラブ

この他、令和3年度の予算として、各地域スポーツフェスタへの助成金 20,000 円の支出が決まりました。



クラマネ研修会（アシスタントマネジャー養成講習会）のご案内

8月28日（土）・29日（日）の2日間、維新百年記念公園維新大晃アリーナ視聴覚室にて、標記の研修会が開催されます。この研修会は、以前は4日間の研修会でしたが、平成30年から、2日間に短縮して、アシスタントマネジャー養成の内容にしぼりました。これからアシスタントマネジャーの資格を取得される人には、コンパクトにまとめられた内容を学ぶというメリットがあります。資格を必要としないクラブ関係者にとっては、既習内容となり、やや魅力に欠けるとの意見もいただいています。

さて、今年度は、下記の講師で、JSPO から示されたカリキュラムでの講習会となります。また、事例発表として、下記の内容で予定されています。すべての講義を受講できなくても、この事例発表だけでも聴講できますので、奮ってご参加ください。

講義内容と講師一覧

8月28日（土）		8月29日（日）	
講義 1 （9:00～10:30）	「地域スポーツクラブとは」 「地域スポーツクラブの現状」 広島経済大学 松本教授	講義 6 （9:00～10:30）	「クラブマネジャーの役割」 広島経済大学 渡辺准教授
講義 2 （10:30～12:00）		講義 7 （10:30～12:00）	
講義 3 （12:45～14:15）	「クラブの作り方」 広島経済大学 渡辺准教授	講義 8 （12:45～14:15）	「クラブの運営」 至誠館大学 福田教授
講義 4 （14:15～15:45）		講義 9 （14:15～15:45）	
講義 5 （15:45～17:45）	事例発表 すげえちや・高泊「地域生涯教育における大学の役割」 よりあい処西ヶ丘「地域福祉から総合型へ」	検定試験 （15:55～16:55）	受験者のみ



人がつながる 人でつながる 人がつくる

地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人…このコーナーでは、コーディネーターがインタビューをして、総合型地域スポーツクラブにかかわる人を紹介していきます。

準備中クラブ ダンスうんどう山口 代表 中谷秀明 氏

6月12日(土)、周南市熊毛地区にあるダンスうんどう山口の定期教室を訪問しました。代表の中谷秀明さんに、これまでを振り返り、将来の展望についてお聞きしました。



ダンスうんどう山口が総合型クラブを目指す意味は？

ダンスうんどう山口は、平成28年から、社交ダンスを中心にしたスポーツ少年団として登録しました。当初は、競技ダンスを目指す子どもたちの成長を間近に見られることに喜びを感じていました。折しも、スポーツ少年団の研修会をきっかけに、総合型地域スポーツクラブのを知り、本来のダンスうんどうが目指している多世代による活動と方向性が同じであることから、山口県体育協会の支援や指導を受け、今日まで地道な活動をしてきました。

クラブとして正式に発足するためにどんなことをされてきましたか？

ダンスうんどうという聞きなれない種目を地域の人にどのように理解していただければいいのか、悩みました。ダンスうんどうとは、ダンススポーツの初心者向けの学習プログラムです。高齢者には健康の維持や増進に、子どもたちにはリズム感とステップを学び、競技ダンスへのきっかけにもなるというものです。そこ

で、県からの補助金を受け、平成30年に北九州市から講師をお呼びし、「多世代ダンスうんどう教室」を開催しました。今の健康教室は、この時の参加者を中心にしています。次の年も同じような教室を開催しましたが、子どもたちが引越してしまったこともあり、最近では、高齢者中心の活動になっています。

今年度から、「チャチャチャクラブ」という名称で、子ども向けのプログラムを展開されようとしています？

昨年度、国庫補助事業として、ACPとリズムうんどうを融合した教室を開催し、50人近い参加者がありました。このイベントは、それまでやや停滞気味であったクラブが息を吹き返すきっかけとなったのは言うまでもありません。会員数はやや少なく幼児中心ですが、この子どもたちが、数年後には、ダンスうんどうを引っ張ってってくれそうな気がしています。

「地域で発表会がしたい…大会に出られるスキルを身につけさせたい…」3人のスタッフとともに、夢の実現へスタートしたばかりの「ダンスうんどう山口」をこれからも支援していきたいと思います。

SSC西京 チェアマン(会長) 野村 雄太郎氏

今回は、山口市を拠点に活動しているSSC西京の野村会長にお話を伺いました。SSC西京は、コロナ禍の昨年7月に設立されました。クラブの役員を含め、会員も20代・30代が中心で、若さあふれるクラブです。

SSC西京の魅力は？

クラブの母体は、「みんなで楽しく」をテーマに活動していた山口市の社会人サークル「アクティ部」になります。ひとりではできないことを皆でやってみよう！いろいろなことに挑戦してみよう！ということで、様々なイベントを企画してきました。それに加え、新たにバドミントンやソフトバレーボールなどの定期教室を展開し、総合型クラブとして設立しました。クラブ名のSSCは、Social Sports Club(ソーシャルスポーツクラブ)です。ソーシャルスポーツクラブとは、競うことよりも、スポーツを通して多くの人と交流を深めることが目的のクラブのことです。クラブ名のとおり、「様々なスポーツやイベントに参加することで、年齢性別問わず、多くの新しい仲間ができる」それがSSC西京の最大の魅力であり目的です。



設立してもうすぐ1年。コロナ禍でのクラブ活動の様子はいかがですか？

コロナ禍であることはもちろんですが、使用している体育施設が改修工事に入ったこともあり、準備中のときに思い描いていたような活動ができていないのが現状です。定期教室については、改修工事が終わる7月中旬以降には再開しようと思っており、イベントについては、感染症の状況やワクチンの接種状況を見ながら企画していこうと考えています。今年度の活動も感染症の影響を受けるのではないかと考えているのですが、状況等を考慮しながら徐々に活動していこうと思っています。

令和4年度には感染症も落ち着き、しっかり活動していけるのではないかと考えているので、その時に向けて準備をしておきたいですね。

このクラブの事務局である木原氏は、至誠館クラブ(萩市)のアーチェリー教室で講師をされています。このようにクラブ間での講師派遣によって、お互いのクラブがより活性化していくように思えます。

アーチェリー体験会を実施すると、取組易さもあり、多くの方が興味を持たれます。新しい企画などを検討されているクラブは、場所の確保ができれば、アーチェリーというのもオススメですよ～！

総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
NPO 法人 Goppo ええぞなクラブ	コロナ禍の活動	令和3年6月	和田 康夫

昨年度からの長引く新型コロナ感染予防対策のため、県内のクラブの多くに会員の減少が見られる中、新型コロナウイルス感染対策をしながら、工夫して教室を開催している宇部市の「Goppo ええぞなクラブ」の取組を紹介いたします。



6月10日(木)の午後から、「貯筋運動教室」に約20人の会員が集まりました。この教室は、昨年度までは、週2回開催されていましたが、今年度は3回に増やし、受講者の増加に対応されました。この教室を増やしたのは、コロナ対応もあり、人数制限をした結果とのことでした。

Goppo ええぞなクラブでは、昨年度、コロナによって活動ができない時期に、活動再開に備え、次のような対応を徹底することにされました。

- ①教室などは、人との間隔をとり、活動の人数を制限すること
- ②市外や県外への移動をできるだけ少なくすること。特に、県外に出た場合は、2週間の活動自粛を要請したこと。
- ③手指の消毒のみならず、使った器具や用具の消毒を徹底したこと

このように徹底した対策を講じ、安心して活動できる環境を整えてはみたものの、207人の会員数が137人に減少してしまいました。しかし、最近では、ワクチン接種が終了したこともあり、再加入する会員が増えてきているそうです。

この貯筋運動教室の人気の秘密は、貯筋運動だけでなく、操体法や関トレ（関節トレーニング）を組み合わせ、参加者があきないように工夫されていることが大きな要因です。操体法は、呼吸をコントロールしながら筋肉を伸ばし、人間が本来持っている力を引き出していくものです。関トレは、日ごろ使わない筋肉を意識的に使い、苦痛を感じない程度の動きで、短時間の間に背中や合掌できるほど、関節の動きの改善を実感できるというものです。こうした流れを楽しみながら、しかも集団で行うことで、自分だけではなく周りの人の体の変化に気づくことができるので、励みになるとの声が多く聞くことができました。



今月発行された「ごっぼっ報 No.94」で、「**ねんりんピック山口県大会にて ペタンク競技で見事 優勝!**」の見出しが目を引きました。3人チームのうち、一人は70歳以上、常時女性が出場しなければならないというルールで、予選リーグと決勝トーナメントを戦い抜き、10月末に岐阜で行われる全国大会に宇部市から始めて出場されることとなりました。コロナ禍の中、ペタンクが、「外で、接触なしで、楽しくできる」という条件にぴったり当てはまると嬉しそうに中野会長さんが語ってくださいました。確かに、コロナ感染予防対策が十分なのであれば、その条件をクリアできる運動種目を選択することもクラブ経営者の視点のように思えました。災い転じて福となす…とは、このことかもしれません。

教室に参加させていただき、関節の動きが改善できたことを体感することができました。自宅での健康体操もいいのですが、こうして仲間と一緒に、安心して楽しく活動できると、思わずうごいているものですね。たくさんのお情報をありがとうございました。

【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】

中央生涯スポーツ推進センター(山口県体育協会)
TEL 083-933-4697 FAX 083-933-4699